C－5　日本の服装にあらわれた色彩について
――日本の伝統色と現代の色の比較――

奈良女大家政　　山崎　勝弘
椙山女学園大家政　○斎藤　祥子

1.　最近殊に1967～1968年春夏にかけての日本女性の服色は余りにもけばけばしく，いわゆるサイケデリックな色彩効果を好む人々によって支持されている半面，日本流行色協会が《日本の伝統色》を刊行し，服飾界，染織界，その他，各方面から好評を博している。この両極端の色彩の間には，どのような相違点があり，または，共通性があるのか，などについて，主として，次の３つの項目について，比較検討した。
ａ．色の三属性について，ｂ．暖色，寒色について，c. 民族性と時代性との関係について。

2.　伝統色の参考資料として，日本色名大鑑，日本色彩文化史，日本の伝統色，現代の色の代表として，AFKカラー(1967 年～'68 年度)を用い，視感比色と分光光度計による測色の上，改良マンセル値に換算し，色度上で比較検討を行なった。

3.　ａ．伝統色と現代の色との間に三属性の等しい色が存在する。
ｂ．昭和の元禄時代といわれる最近の超高彩度の服色に等しい鮮やかな色が伝統色の中にも見られる。
ｃ．伝統色は総体的にみて暖色系統が多い。
などがわかり，伝統色についての価値を再認識できた。